

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です! /

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの 古重カ

NO.90



糸島市東
波多江源太さん
(33)

今回は、就農して15年目を迎えられた、糸島市東の波多江源太さんを紹介します。



25馬力の3台の他、乗用管理機などを保有されています。

キャベツ苗の定植を実演して頂きました。苗は種から畑で育てます。定植は9月から翌年の3月まで続きます。

◆農業経営の内容を教えてください

家族経営で、キャベツを5.7畝と米を2.7畝生産しています。

キャベツは早生と中早生の5品種で、米はヒノヒカリです。

生産から出荷までの作業については、兄と私の2人が中心となって行っています。

キャベツも、ここ2・3年は霜による被害が特にひどいため、寒害対策が大変です。

霜が降りて冷え込み、昼は気温が上がると、中が腐ってしまいます。

外から見ただけでは分かりにくいので、クレームの原因になります。

◆就農のきっかけは？

幼い頃から農業に興味があり、物心がついた頃から農業を継ごうと思っていましたので、高校卒業後、すぐに就農しました。

兄は、初めは農業をする気持ちはなかったようですが、今は一緒にやっています。農業では私の方が1年先輩です。

◆心掛けていることは？

品質管理です。クレームが来ないように、高品質なキャベツを作ること、傷などが無いか出荷時に厳しく確認することを心掛けています。

昨年クレームが来たときは、「あれだけ注意しても足りなかった」とショックを受け、さらに時間をかけて確認するようになりました。

◆就農して大変だったことは？

就農した当初は、「父から言われた通りやれば良い」という気持ちでしたが、今は以前に比べて気候の変動が激しいので、「今までのやり方ではいけない」と、栽培管理について考えることが多くなりました。

◆将来の抱負は？

まずは、親世代が築いた収量・面積を減らさないことを常に心掛けています。

そして規模拡大よりも、現在の作付面積で収量・品質を向上させたいと考えています。

JA青年部が糸島市立前原小学校にお米を寄贈

JA青年部前原東支部に所属する前原地区の部員10人が、糸島市立前原小学校5年生児童118人にお米(ミルクークイーン)132kgを寄贈しました。

JA青年部では、毎年同小学校5年生の田植えや稲刈り等の体験学習を支援していますが、今年はコロナ禍で開催中止となったことから、体験学習用に栽培したお米を収穫し同小学校に寄贈しました。

JA青年部前原東支部長の中田寿雄さんは「今年はコロナ禍で体験学習は出来ませんでした、農業に関心を持って下さい」と子ども達に呼びかけました。



青年部員から米を受け取る子ども達